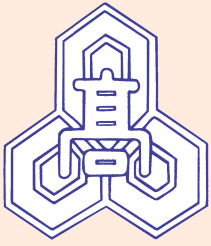


大田高校 P T A 広報



泰山木

Taisanboku

第118号

令和2年10月30日

島根県立大田高等学校
P T A 総務委員会



GO THE DISTANCE



ごあいさつ



会長 岩谷 宏一

平素より、本校PTA活動にご理解とご協力をいただき、お礼申し上げます。
本年度も引き続きPTA会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。岩谷です。
いよいよ来年、本校は創立百周年を迎えます。この歴史ある本校PTA会長として微力ではありますがしっかりと役割を果たしたいと思っております。

さて、コロナ禍といわれる現在、私たちの日常生活の様々な場面での困難を感じたり、工夫を要する事が増えています。子ども達の生活を振り返ると休校措置、部活動の大会中止等非常に大きな影響がありました。そのような状況下、困難を克服するための手法として、ITを駆使することも大きな手立てとなっております。実際、私も仕事のみならず、PTAの会議にリモート参加するといった経験をしました。

私はITを今まで以上に活用することをおして、高校時代の先輩、同級生、先輩と繋がり、やりとりをする機会が増えました。彼らは様々な分野、場所で活躍しています。そして、いつも話題になるのは高校時代の話です。学業や部活に本気で取り組んだこと、挫折を味わったこと、個性豊かな先生方、ユニークな仲間達。そして時代を超えて誇ることのできる校歌について。

昨年度のごあいさつにて私は郷土を愛し、郷土に貢献する人材の育成について関心をもっていると記しました。今回のコロナ禍でのささやかな経験からではありませんが、多くの卒業生は郷土愛、郷土に貢献したい強い気持ちを持ちつかりもっていることを強く感じました。その一方でこのコロナ禍において非常に困難な状況下で頑張っている先輩、同級生、先輩の生きる姿勢に接してみても「自らの強みを知り、役割の果たせる場に駆けつけ、勇気を持って困難な課題に果敢にチャレンジする力を醸成すること」も今後の人材育成に非常に重要ではないかと思われました。

何が与えられているかでなく与えられたものをどう使うか。現在も様々な場面で困難な状況はありますが、子ども達が本校での学習、学校生活とおしてこれから生きていく上での智慧、勇気を育むのに、先生方のお力だけではなく、地域の皆様、そして何よりもPTAの皆様の力も必要となります。

PTA会員の皆様と共に協力して活動していきたいと考えております。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

When life hands you lemons, make lemonade!

副会長 渡邊 宏志

「人生があなたにレモンを手渡したら、レモンードを作りなさい」。令和二年度学園祭オープニングで生徒に送った言葉です。レモンでレモンードを作れなんて、当たり前じゃない！と思われるかもしれません。日本人からすればさわやかイメージのレモンですが英語のレモンには、「災い」という隠れた意味があるんです。今、私たちはまさに、コロナ禍というレモンを渡されています。「災い転じて福となす」ことが出来ますか？私たちは天から試されているのかもしれない。

非常事態宣言が出され、四月、五月と休校となり、学校から生徒の姿が消えました。高校生として青春のかがりを燃やすはずだった部活動の大会がなくなりまして。こんなひどいことがあつていいのか、言いようのない虚無感と不条理。カミュの「ペスト」が飛ぶように売れたとか。

私の頭を渦巻いたのは、どうやって遅れた学習をどう取り戻すか、でした。「三日間も学園祭をやつてる場合じゃない！学校行事の精選、中止も踏まえ、今年の学園祭は二日で十分だ。」当初、正直そう思いました。しかし、学園祭二日間案を察知した生徒たちの様子を窺いながら、学習の遅れを回復することも大事だけれど、この半年間学校生活を失い続けた彼らから、さらに学園祭の一日を失わせる事にどれだけ意味があるのかを自らに問うようになりました。三日間では足りないかもしれないけれど、コロナ禍の制約の中、工夫しながら何かを生み出すことこそやらせるべきだ、そう思うようになりました。

今年の学園祭は、三年生の保護者限定という入場制限をしました。ごめんなさい。でも、見事に生徒たちは、すばらしいレモンードを作ってくれました。これなら、大高生の未来は明るいぞ、そう思える三日間でした。

副会長 山根 あずや
昨年度に引き続き、役員として研修委員会を担当させていただきました。コロナ禍で様々な活動が縮小される中、少しでも子ども達にとつて充実した学校生活となるよう活動してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

副会長 丸亀 利恵
今年度、役員として会員交流委員会を担当させていただきます。皆様にご協力いただきながら、皆が笑顔で交流できるよう活動していきたくと思っております。よろしくお願い致します。

副会長 松本 竜二
昨年度に引き続き役員として生活指導委員会を担当させていただきます。今年度はコロナ下の環境の中、活動も限られますが生徒の為に尽力したいと思っております。よろしくお願い致します。

副会長 菅 森 栄 造
今年度、役員として総務委員会を担当させていただきます。PTA活動はあまりしていなかったの何かとご迷惑をかけることもあるかと思いましたが、よろしく願います。

副会長 岩 義 博
高P連の全国大会担当ということで役員に加えていただきました。全国大会は延期になりましたが、来年の八月には多くの皆様とともに、大会のお手伝いが出来ることを願っています。

大高祭を終えて

生徒会長 二年四組 三浦万莉亜

三日間の学園祭を無事に終えることができ、安堵と感謝の気持ちでいっぱいです。今年のメインテーマは「GO THE DISTANCE」。最後までやり遂げるという私たちの思いをこめたものでした。連日の準備や練習を、コロナ禍という制約の中でおこなうことは、例年とは大きく違った大変なことでした。しかし皆で協力して困難を乗り越えることで、各々にとって「特別な夏」、思い出となったのではないかと思います。ありがとうございました。

黄組団長 三年一組 和田 聡太

今年の体育祭も、とても楽しいものにする事が出来ました。コロナウイルス対策によって多くの制約がありました。その中でどう盛り上げていくかを考え、結果的に多くの工夫が出来ました。体育祭を開催するために、多くの人の頑張りがあつたと思います。三年生の高校生活最大の思い出のためにご尽力いただきありがとうございます。一生の思い出として心に残していきます。

緑組団長 三年二組 大野 颯馬

今年の体育祭はコロナウイルス流行の影響で、たくさんの制約がかかったものとなりました。しかし最初こそ不満が溢れていましたが、最後に

はみんなが幸せそうな顔をしていて、私自身も幸せに思いました。これは、みんなが、一人ひとりの力を出し切って「特別にしよう」とした結果だと思えます。みなさんには幸せになる力があります。それを信じて、これからも楽しんでいきましょう。

赤組団長 三年三組 松浦礼於奈

まずは、このような環境の中、大高祭を開いてくださった先生方、本当にありがとうございます。最初は不安でいっぱいでした。ですが、最高の大高祭にすることができました。これは赤組全員のおかげだと思います。赤組のみんなは、僕の「Hero」でした。今年の大高祭は、間違いなく今までで一番の大高祭です。胸を張って言えます。残る大仕事は受験。三年生のみんなと力を合わせて受験を乗り越えます。大高しか「勝たん。」

青組団長 三年四組 梶西 幸平

今年の大高祭は、新型コロナウイルスや台風などにより何かと制限は多かったです。最高でした！これは、毎日放課後に残って何時間も準備してくれた三年生だけでなく、暑い中ダンスを覚えてくれたり、すばらしいクラス企画を考えてくれた一・二年生、運営をしてくれた生徒会の人、先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

大高祭に参加して

研修委員会 山根あずさ

今年度の研修委員会は、コロナ禍の状況であることから研修は開催せず、その代替として「大高祭のサポート」をすることとし、文化祭において校内の巡回を担当しました。

グループに分かれご担当の先生と一緒に校内を巡回しましたが、その際廊下に展示された作品の数々や各教室で様々な企画を拝見することができました。いろいろと制限された中での準備や実施に向けた生徒の皆さんの頑張りがとても伝わってきました。すれ違う生徒の皆さんは笑顔であふれていて、例年にはない特別な大高祭を精一杯楽しもうとする姿に感動しました。サポートというかたちで大高祭に参加させていただき感謝しております。ありがとうございました。委員会の皆さん、大変お疲れ様でした。

会員交流委員会 丸亀 利恵

例年、会員交流委員会の活動としてロードレース大会で軽食配布をしていましたが、今年は大高祭でジュース販売をすることになりました。当日は台風の影響も心配されましたが、実施することができ、コロナ禍の状況の中でも貴重な思い出ができたことと思います。ジュース販売を通して、熱中症予防や運動・応援の合間のリフレッシュに貢献できて良かったです。また、この三日間で先生方や保護者

同士、そして子ども達と会話や交流を楽しむことができ、この繋がりの大切さをあらためて感じさせられました。

初めての試みで不安もありましたが、皆様のご協力を得て、無事に終えることができました。ありがとうございました。



生活指導委員会 松本 竜二

今年度はコロナウイルス感染防止、また、台風接近の中、限られた環境での開催になりましたが、先生方や生徒の皆さんの準備により無事大高祭が開催されて良かったと思います。

PTAとしても大高祭のお手伝いを役割を決めて実施しました。生活指導委員会としましては最終日の体育祭の保護者受付、駐車場整理、会場警備巡回を実施しました。受付で少し込み合う時間帯もありましたが会員の皆さんの協力により全体を通して特にトラブルもなく進行することができました。体育祭についてはどの競技も見応えがありました。特に印象に残ったのが息の合った迫力ある応援合戦や最終種目のリレーでした。色を問わず盛り上がり、全体が一つになり感動しました。

新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスによる感染症拡大防止のため、行事などに様々な影響が出ました。今年度どのようなことがあったか、たどつてみました。

月	日	内容
4月	8日	一学期始業式
	9日	入学式 → 新入生、新入生保護者、教職員のみ出席して実施
	15日	遠足 → 中止
	16日	政府による緊急事態宣言発出 → 午後より休校
5月	11日	一学期中間試験 → 中止
	15日	P T A 総会 → 中止、文書議決に変更
	18日	各クラス半数ずつ登校し、午前中授業を実施
	25日	分散登校解除、全校で一日授業開始
	28日	県総体(前期) → 中止
6月	4日	県総体(後期) → 中止

月	日	内容
7月	7日	校内球技大会 → 15日以降、学年別で実施
	10日	中国四国地区高等学校 P T A 連合大会・広島大会 → 中止
8月	5日	一学期終業式 → 8月4日に日程変更
	22日	オープンハイスクール → 5日・6日各々午前の二日間開催
	18日	二期始業式
	20日	全国高等学校 P T A 連合大会・島根大会 → 来年度へ延期
9月	3日	大高祭

※全国高校総体は中止。各部の全国大会も中止の発表。それに伴い、高校野球選手権大会県予選、吹奏楽コンクール県大会をはじめ様々な大会も中止に

※7月以降、競技によって代替大会を実施

休校期間中は、活動が制限され、様々な大会が中止になるなど、つらいこと、不自由なことがたくさんありました。逆に、自宅で過ごす時間も多くなることで、良かったことがあったかもしれません。「休校期間中に取り組めて良かったこと」について、二年生にアンケートを行いました。(複数回答可です)

第2位 趣味 20.0%

「普段は読めない本をたくさん読んだ」
 「新作のゲームができて良かった。レベル上げができた(ゲームも勉強も)」
 「普段見られない時間帯の朝の情報番組を毎日見ていた」
 「映画鑑賞をした。普段あまり映画を見ないので、とても有意義だった」
 「溜まりに溜まったドラマやアニメや映画を見ていた」
 「ひたすら絵を描いていました」
 「手芸」「タイピング練習」

第4位 家事、手伝い 15.1%

「休校期間中は家事の手伝いをしました。始めたきっかけは、休校期間中は勉強だけで一日を終わらせるのはもったないと思い、自分も家族の一員として取り組みたいと感じたことです。取り組んだ結果、家事の大変さ、家族に貢献する嬉しさを感じることができました」
 「親が仕事でいなかったので、自分でご飯を作ったりしました。普段出来ない家事をすることができ、とてもいい経験になりました」
 「家事の手伝いができて良かった。家族との会話が増えて良かった」

第1位が「勉強」というのは意外でしたが、「普段できないこと」を意識して、休校期間を自分なりに考えて過ごしたようです。「家にいるのが一番落ちつくので、本当にのびのびと過ごさせてもらいました」「このような期間があるのもよいかしれません」という感想がある一方、「これからはやりたくない」「暇すぎて、もう休みたい」と思いました」という感想もありました。

第1位 勉強 29.2%

「休校期間中までの復習」
 「やりたかった勉強がたくさんできた」
 「苦手な科目を思う存分取り組めた」
 「家で動画を見て、授業の理解度が深められたこと」
 「スタサプで予習・復習ができたこと」
 「自分にあつた勉強の仕方を見つけることができた」
 「毎日8時間勉強できた。誰にも誕生日を祝われなかった」
 「リビングで、兄弟の課題や親の仕事と同じ時にすることで、集中してできた」
 「自分一人で勉強するという環境で、自分で管理することの大変さがわかった」

第3位 運動 15.7%

「体育で運動をすることが課題で出て、色々な筋トレをして、少し痩せることができてよかったです」
 「部活ができないので、自分でメニューを考えて、ほぼ毎日できた」
 「家の近くを走ることに、ずっとしたかったけど、普段は部活があり時間がないので、この期間にできて良かった」
 「運動を毎日していました。姉と一緒にできる運動を見つけて取り組み、コロナ太りを防ぎ、健康的にできました」

第5位 睡眠、規則正しい生活 12.1%

「質のいい睡眠」「ゆっくり休めた」
 「学校がある日と同じ時間に起きて、同じ時間に寝ると、一日を充実して過ごすことができた」

第6位 ない 7.9%

休校期間中に取り組めて良かったこと

部活動代替 大会等結果

文化部

【写真】

▽第27回全国高等学校写真選手権大会

「写真甲子園2020」

※すべて初戦で提出した作品を審査される「Web大会形式」

- ・中国ブロック審査会進出（中国ブロック上位5校） 8月21日（金）
- ・中国ブロック代表校選出（中国ブロック1位） 9月18日（金）
- ・本戦出場賞受賞 9月25日（金）

出場生徒（全員3年生）

- 田中柚木乃・馬島 好花
- 小笠原利香・三谷 麻尋

▽第44回全国高等学校総合文化祭

「2020こうち総文」（Web開催）

出場生徒 小笠原利香

【文芸報道（報道）】

▽第44回全国高等学校総合文化祭

「2020こうち総文」

「瓶陵新聞」を出品するかたちで参加

運動部

【弓道】

▽7月25日（大田高校弓道場）

女子個人戦

山崎 百恵 8射7中 ……優勝

男子個人戦 ……入賞者なし

女子団体戦

予選 40射15中 ……予選通過

決勝トーナメント

準決勝 大田 6―12 出雲

男子団体戦 ……ベスト4

予選 40射11中 ……予選敗退

【剣道】

▽7月24日（浜山体育館）

男子団体戦

1回戦 大田 2―1 松江高専

2回戦 大田 0―1 松江農林

男子個人戦

松前、檜垣、和田…2回戦進出

別所 ……1回戦敗退

【陸上競技】

▽島根県高等学校選手権大会

（7月11・12日 浜山公園陸上競技場）

5000mW 26分58秒98

宮原 愛(3) ……優勝

三段跳 12m23

鶴石 悠斗(2) ……5位

4×100mR 45秒89

吉岡(1)・松原(1)・和田(2)

・鶴石(2) ……7位

▽島根陸上競技選手権大会

（7月18・19日 松江市宮陸上競技場）

走幅跳 6m16

和田 悠良(2) ……8位

▽中国5県陸上大会の参加資格を得た

が、その後大会が中止となる

▽2020全国高等学校リモート陸上

競技選手権大会

5000mW 26分58秒98

宮原 愛(3) ……45位

【女子バレーボール】

▽7月25日（金城総合体育館・島根県

立体育館）

2回戦 大田 2―0 瀬摩

準決勝 大田 2―0 吉賀

決勝 大田 2―1 石見智翠館 ……優勝

【男子バスケットボール】

▽7月23日（島根県立体育館（浜田））

1回戦 大田 49―75 益田

【ソフトテニス】

▽男子個人戦（7月19日 石見海浜公

園テニスコート）

下隈・渡邊ペア 準々決勝進出

……ベスト8

勝部・杉谷ペア、加藤・杉本ペア
3回戦進出 ……ベスト32

▽女子個人戦（7月19日 江津市営コ

ート）

澁野・井寺ペア 準々決勝進出

山尾・月森ペア ……ベスト8

▽男子団体戦（7月24日 浜山運動公

園テニスコート） 雨天のため中止

▽女子団体戦（7月25日 浜山運動公

園テニスコート）

予選リーグ

大田 0―3 浜田

大田 1―2 安来

……予選リーグ敗退

2、3位トーナメント

2回戦 大田 2―0 松江農林

準決勝 大田 2―1 松江東

※日没のため、決勝は中止

【野球】

▽令和二年度島根県高等学校夏季野球

大会（選手権代替大会）（7月18日

浜山公園野球場）

2回戦 大田 1―8 大社

▽令和二年度島根県高等学校秋季野球

大会

2回戦 大田 3―8 益田東



3年生球技大会

マスク製作



学園スナツプ



入学式



理教科課題研究

泰山木を通じ、今年度のこれまでの活動を振り返ると、いかにコロナの影響が大きく、生徒の皆さんが例年通りの学校生活の日常を送れなかったかが分かります。いつの時代も想定外のことには起きてきました。戦争、災害、身内の問題、自身の問題。幼少期？ 青年期？ 老年期？ 学生時代に平凡な日常が当たり前でないことに気付ける機会を与えられたこと、少しはありがたみを見つけることができるかもしれせん。

(細田次郎)

編集後記

広報編集に初めて携わり、大変貴重な経験をさせていただき感謝申し上げます。コロナ禍という制限下、様々な行事が中止、或いは縮小という形となり、掲載記事の編集にも苦慮しましたが、無事に第一一八号の発刊に至り安堵しています。我々PTAも、この苦境を生徒、教職員の皆様と共に乗り越え、今後の活動に生かしていきたいと思えます。

(檀垣栄作)

本校を昭和57年度(一九八二年)に卒業した中村学と申します。その年度は大田高校60周年ということで私は、大田の町を提灯を持ちながらお祝いの行進をしたのを覚えています。当時の私はその60周年の重みをあまり感じていませんでした。ところが、あれから40年！まもなく百周年ということで、今回ばかりは、相当な重みを感じています。いまからワクワクしております。

(中村 学)

